

歴史書 通信

5

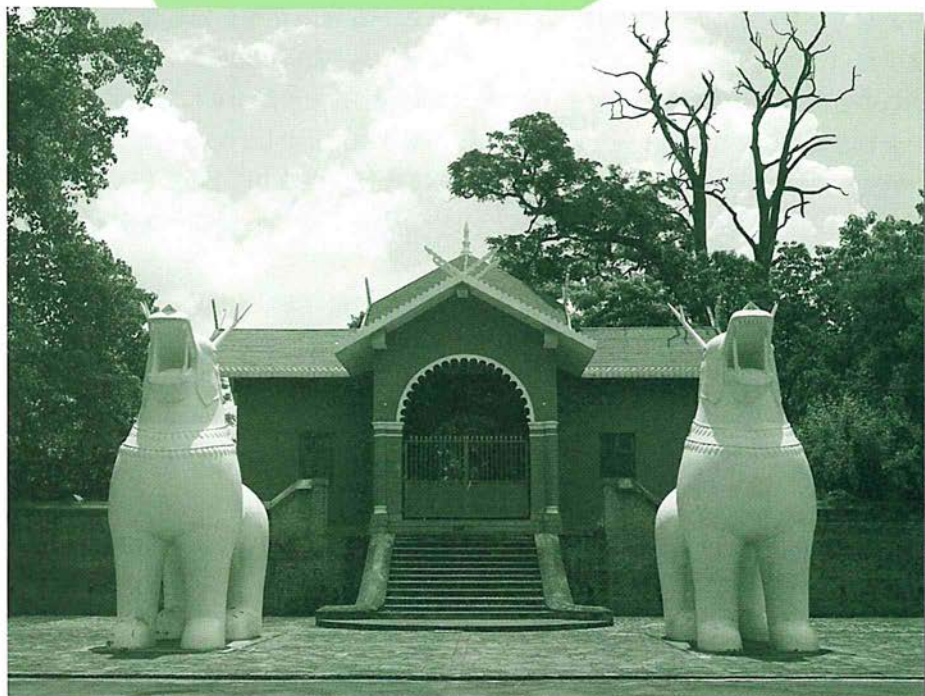
2020 No. 249

書き継がれる、語られざる歴史 [石川 和雅]

歴史書新刊ニュース (3・4月)

歴史書以外の人文社会図書新刊案内 (3・4月)

歴史系学会・シンポジウム開催情報



歴史書懇話会

書き継がれる、語られざる歴史

—メイテイ語の碑文から—

石川 和雅

(グローバル・スタディーズ研究)

1. メイテイ語の碑文

赤錆の浮いた鉄屑の向うに、一基の石碑が建っているのが見えた。不安定な鉄屑の山に上り、ようやくその表面に刻まれた独特な形状の文字を目にすることができた。ミャンマー中部の町ザガインでのことだが、刻まれていたのはメイテイ語の文字である。インド東北部のマニプール州で使われている文字だ。

この石碑の存在は、ミャンマー国内で発行されている観光ジャーナルの記

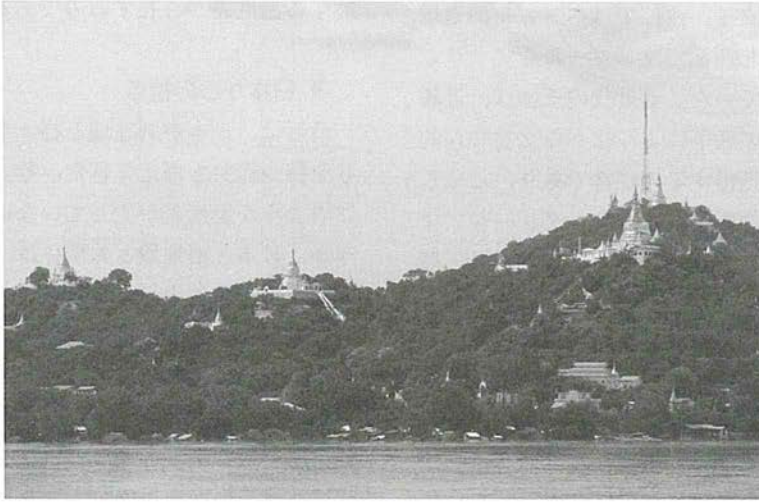
事で知った。ザガインに「約 200 年前」のメイテイ語が刻まれた石碑が現存しているが、「内容はわからない」ということだった。アマー・シュエナベという精霊の祠に隣接して立っているという。

現物を実見する機会は 2016 年に得られた。バイクタクシーのドライバーはこの石碑の存在を知らなかったが、記事にあった所在地の街区名と、精霊の祠の名前を手がかりに辿り着くことができた。しかし、いざ現地に着いてみると、鉄屑の山に上るという最後の苦勞をしなければならなかったのだ。

精霊の祠の方は、信仰の対象として手厚く管理されているようだった。煉瓦造の祠とそれを覆う堂には修復を行った施主の名が掲げられており、いずれも近年のものである。ところが、貴重なはずの石碑は、不法投棄らしい鉄屑の山に埋もれている。近隣住民に聞くと、少し前に「酔っ払い」が捨てていったのだという。



ザガインのメイテイ語碑文



丘陵上に仏塔が立ち並ぶザガイン丘陵の遠景

2. マニプールとミャンマー

メイテイ文字が刻まれた石碑の中心部分は古そうだが、その外周部は後に補修された部分のようである。史料の価値をただちに評価することは難しいが、ひとまず、マニプールとミャンマーの交流史の産物として捉えることはできそうだ。ただし、両地域の交流史を取り巻く状況はいささか複雑である。

先に触れた観光ジャーナルの記事は、この石碑に関する出典として、一冊の歴史書を挙げている。マニプール州の州都インパールで公刊された "*Awa: Kate and Paona*" という本だ。タイトルの「アヴァ (Awa)」はミャンマー王国の都の名であり、「カテー (Kate)」はマニプールの主要民族であるメイテイ族に対する、ミャンマー側の呼称だ。

「アヴァ」周辺に残るカテーの末裔のコミュニティの歴史をまとめた本で、

ザガインの碑文もその一事例として収録されている。アマー・シュエナバーとして認識されている精霊は、メイテイ族からは女神イマー・パントイビーとして祀られ、碑文はその祠に関連したものだだったという。この歴史書について特筆すべきは、英語・メイテイ語・ミャンマー語の3言語で併記されていることだろう。読者としてミャンマー語話者も想定されているのである。

石碑の作成年とされる約200年前には、マニプールとミャンマーにそれぞれ独立した王国が存在していた。マニプール王国はインパール盆地を中心とし、西はブラマプトラ河流域を通じてアッサムやベンガル文化圏と、東ではチンドウィン河流域を経てミャンマー王国と接していた。一方でミャンマーの歴代王国は、エーヤーワディー河中流域に都を置き、北東部では雲南、東

部ではタイ、西部ではベンガル湾地域、そして北西部でマニプールやアッサムに接していた。前近代の王国は、近隣諸国への戦争により様々な文物や人的資源を獲得するのが常であり、こうした歴史的背景から、マンダレーやアマラプラ、アヴァ（インワ）など旧王都地域には、多様な出自を持つコミュニティが点在しているのである。

マニプールとミャンマーの関係も例外ではなかった。18世紀以降、ミャンマー王国はマニプールへの遠征を繰り返し、獲得した住民を王都周辺に住まわせた。メイティ族は騎兵隊や織物職人、宮廷付のパラモン（上記のタイトルにいう「Paona」）などとして王国の要職を担うことが多かった。今でもその末裔の村や街区では独自の文化が保持されており、マニプールの研究者からすれば、それは両地域の歴史的交流を物語る重要な素材となる。わざわざミャンマー語が併記されたのも、その知見を共有するためだろう。

しかし、ミャンマー側ではこれに対応する視点はあまり一般的ではない。公定歴史観によれば、歴代王国とその都は、主権の象徴として歴史叙述の中核に位置付けられる。だが、そこに内包されていたであろう住民の多様性や、外部世界との交流史は主題となる機会が決して多くはない。また、その生き証人である有形無形の文化財を研究・保全しようとする公的な取り組みも弱い。双方の間には、交流史への評価に

対する温度差が存在するのである。

3. 日本からの視点

最近では、日本が両地域と様々な関わりを持つ機会も増えてきた。そこにはこのような温度差が生じていないだろうか。日本と両地域との関係は、アジア・太平洋戦争中のミャンマーでの一連の戦闘や、悲惨な敗戦であったインパール作戦に関連付けて語られるのが一般的だ。数万人規模の日本人が初めて現地を訪れ土地の人々と接触した経験は、戦後様々な形で公表され、両地域に対するイメージ形成に影響している。しかしその視野には死角もある。

例えば、戦後独立を果たした両国政府との関係ばかりが重視されるあまり、国内の民族的・宗教的多様性への視線が及びにくい。ミャンマーについていえば、仏教に代表される多数派ビルマ族の文化や言語、歴史が度々言及される一方で、各少数民族への言及機会は少ない。ところが、昨今のミャンマーでは、国政でも近隣諸国との外交面でも、各民族勢力の動向がますます重要性を増している。

インドにしても構図は同様だ。かつてのインパール作戦では、マニプールをインドの一部と見なし、インパールの占領がイギリスに対するインド独立運動の起爆剤となることが期待されていた。だが、その認識は妥当だったのだろうか。マニプール州や隣接するナガランド州では、インド政府との間で

長期にわたる内戦を経験してきた。このことは、「インド」という国家の枠組みが自明のものではなかったことを示唆している。

両地域に対する日本からの開発援助の必要性は頻繁に訴えられている。だが、そもそもその背景には、両国が独立国家のあり方をめぐって、中央政府と各地の政治主体との間で問題を抱えていたことが影響している。国家の中央だけを見ては、複雑な国内事情への理解が及びにくい。ましてや両国の通交が絡む分野となればなおさらである。

4. 歴史を書き継ぐ個人

メイティ語碑文の存在が紹介された経緯は、こうした死角を補うための想像力を提供してくれる。国家機構や公的機関とは別に、自律的な個人がそれを書き継いできたからだ。

先に述べた3言語併記の本の編者は、インパールの郷土史家であるムトゥア・バハドゥル氏である。1960年代頃からマニプール各地の伝統工芸の調査と収集を始め、研究対象はさらに東南アジアや南アジアの近隣地域との文化交流史にまで広がった。その成果は複数の著作のみならず、自らの博物館

としても結実している。

ミャンマーに残るメイティ族末裔のコミュニティの調査は、2001年のミャンマー初訪問以降に開始した。その手掛かりとなったのは、コー・ピンニャーによる先行研究だという。コー・ピンニャーは、アマラプラの古刹タウンレーロウン僧院の僧侶で、仏教教学の知識はもとより、アマラプラ周辺の伝承や古文獻の搜索と収集活動によっても広く知られている。自発的な探求心に基づき、地道な活動を続けてきた在野知識人の交流が、碑文の存在を書き継いできたのである。このような知識人は各地に根強く存在している。彼らは、政府の公定史観の立場からは語られる機会がない、小さな歴史を粘り強く伝えている。

国家の経済指標だけを見れば発展途上国に位置づけられてしまう両地域だが、視点を変えれば個人の意思に支えられた「歴史書」が存在していることに気づく。耳を傾ける努力を惜しまなければ、我々の世界認識を豊かにしてくれる数多くの声が聞こえてくるに違いない。

〈表紙〉近年、復元が行われたインパールの王宮

新刊ニュース

3・4月の新刊 *発売予定のものもあります

歴史一般 事典/年表・地図/歴史学・補助学

金山喜昭編

転換期の博物館経営

指定管理者制度・独立行政法人の検証と展望

A 5判 266頁 2,700円

同成社 [4月刊]

指定管理者制度を導入して博物館は何か変わったのか。その実状と課題を明らかにし、これからの時代の博物館経営について提言する。

978-4-88621-841-4

考古学 概論・通史/日本/アジア/ヨーロッパ/アフリカ/アメリカ/その他

谷澤重里著

玉からみた古墳時代の開始と社会変革

B 5判 350頁 12,000円

同成社 [4月刊]

玉類の広域流通と消費動態を復元し、古墳時代開始期における社会変革の様相を捉え直す。西日本の玉類副葬の詳細な集成表も収録する。

978-4-88621-835-3

岸本直文著

倭王権と前方後円墳

B 5判 348頁 9,500円

塙書房 [4月刊]

古墳時代の倭国王と地域首長の関係を示す前方後円墳共有システムを解明し、前方後円墳の変遷と系列を整理して倭の王権構造の特質を論究。

978-4-8273-1313-0

宮武正登著

肥前名護屋城の研究

中近世移行期の築城技法

B 5判 288頁 12,000円

吉川弘文館 [3月刊]

発掘成果と文献資料から、秀吉直営の陣城として唯一残る城塞群遺跡の全貌を解明。中世以降の「陣」や石垣の変遷史を初めて描く。

978-4-642-02960-5

日本史 概論・通史/史料/古代/中世/近世/近代/現代/地方史

板山真弓著

日米同盟における共同防衛体制の形成

(MINERVA 人文・社会科学叢書)

A 5判 280頁 6,500円

ミネルヴァ書房 [2月刊]

日米両国の一次史料を用いて、防衛協力の実態とその公式化を巡る政治過程を明らかにする。

978-4623-08540-8

宮内庁書陵部編

図書寮叢刊 九条家本紙背文書集 中右記部類外

(図書寮叢刊)

A 5判 354頁 15,000円

明治書院 [3月刊]

鎌倉中期までの書写と推測される書陵部蔵九条家本八件の紙背から、新紹介の大江広元書状を含む一六九点の文書などを翻刻した文書集。

978-4-625-42434-2

公益財団法人永青文庫・熊本大学永青文庫研究センター編

永青文庫の古文書

光秀・葡萄酒・熊本城

四六判 248頁 1,800円

吉川弘文館 [4月刊]

熊本藩細川家に伝わる6万点近くの歴史資料。光秀らをめぐる人間模様、忠利所望の国産葡萄酒、熊本城の修復など、歴史の深奥に迫る。

978-4-642-08386-7

原田 実著

偽書が揺るがせた日本史

四六判 272 頁 1,800 円

山川出版社 [3 月刊]

古代から現代まで、「偽書」と呼ばれる書物に秘められた奥深さを検討し、日本史におけるもうひとつの「真実」を探る。

978-4-634-15163-5

熊本史雄著

近代日本の外交史料を読む

(史料で読み解く日本史 3)

A 5 判 416 頁 5,000 円

ミネルヴァ書房 [2 月刊]

電報や公信などの公文書の内容、そして意思決定過程とは… 近代日本の外交史をより深く知るために必携の道案内。

978-4623-08789-1

吉田 晶著

卑弥呼の時代

(読みなおす日本史)

四六判 238 頁 2,200 円

吉川弘文館 [3 月刊]

「倭人伝」などの文献や考古学の成果により政治・習俗や社会・組織・生産を解明。日本初の国家成立と全体像を、ダイナミックに描く。

978-4-642-07115-4

水谷千秋著

日本古代の思想と天皇

(日本史研究叢刊35)

A 5 判 378 頁 8,500 円

和泉書院 [3 月刊]

神話に基づく皇孫思想と儒教、仏教が如何にして国家のイデオロギーとなったのか。『記』『紀』の分析を通じて古代思想史の核心に迫る。

978-4-7576-0947-1

大阪市立大学難波宮研究会編集

難波宮と大化改新

(日本史研究叢刊36)

A 5 判 344 頁 7,200 円

和泉書院 [3 月刊]

難波宮は国制の変革である大化改新を実施した日本初の宮城であり、難波宮と大化改新を一体的に把えることを試みた最先端の研究成果。

978-4-7576-0952-5

日本書紀研究会編

日本書紀研究 第33冊

日本書紀撰進1300年記念

A 5 判 350 頁 10,000 円

塙書房 [4 月刊]

〔執筆者〕生田敦司／荊木美行／内田正俊／上遠野浩一／関根淳／西川寿勝／阪口由佳／新蔵正道／塚口義信／寺西貞弘／平林章仁／渡里恒信

978-4-8273-1533-2

西本昌弘編

日本古代の儀礼と神祇・仏教

A 5 判 326 頁 10,000 円

塙書房 [4 月刊]

①儀礼と宗教の内実、②神祇と伝承の諸相、③仏教と寺院の展開の三部構成。即位儀礼、大嘗祭、風土記、桓武天皇などの考察 17 篇を収載。

978-4-8273-1312-3

榎村寛之著

律令天皇制祭祀と古代王権

A 5 判 456 頁 13,000 円

塙書房 [3 月刊]

歴史資料を情報の発信と受容の記録として捉える観点で、古代の支配イデオロギー、野行幸や諡号、飲食儀礼、更に王権と王朝絵画などを考察。

978-4-8273-1310-9

榎 英一著

律令交通の制度と実態

正税帳を中心に

A 5 判 498 頁 15,000 円

塙書房 [3 月刊]

法律制度・公的会計報告・政府編纂の史書を主材に、正税帳から見た伝制、国司の交通、諸国行程と調庸運送の構成で、公的交通の実態を考察。

978-4-8273-1311-6

寺崎保広著

聖武天皇

帝王としての自覚と苦悩 (日本史リブレット人 7)

A 5 変型判 100 頁 800 円

山川出版社 [3 月刊]

平城京・正倉院宝物・国分寺など天平文化の中心にあった聖武天皇。晩年にはさまざまな苦難が重なり仏教に没頭していく人物像を、その言葉とともに描く。

978-4-634-54807-7

倉本一宏編

現代語訳 小右記 10

大臣隠居騒動

四六判 336 頁 3,000 円

吉川弘文館 [4 月刊]

無能な左大臣顕光が辞任する噂が駆けめぐり。代わって大臣の地位を得るのは自分であると確信する実資は、情報収集に全力を傾ける。

978-4-642-01825-8

湯浅治久著

中世の富と権力

寄進する人びと (歴史文化ライブラリー 497)

四六判 224頁 1,700円 吉川弘文館 [3月刊]

他者にもものを譲渡する「寄進」。在地領主や宗教団体などを対象に、実態に迫る。寄進で生み出される新たな富、権力のあり方をさぐる。

978-4-642-05897-1

高橋裕文著

中世東国の村落形成

中世前期常陸国を中心に (岩田選書 地域の中世 21)

A5判 174頁 2,600円 岩田書院 [4月刊]

農村の自立的動向「惣郷＝郷村結合」を検証し、それを一連の流れとして捉える。

978-4-86602-097-6

市村高男編

中世石造物の成立と展開

A5判 430頁 10,000円 高志書院 [4月刊]

日中韓の石造物を素材に日本中世石造物がどのように成立して、九州から南奥にかけての列島各地にどのような展開を見せたのかに迫る。

978-4-86215-206-0

大庭康時・佐伯弘次・坪根伸也編

武士の拠点 鎌倉・室町時代

(九州の中世 2)

A5判 300頁 3,000円 高志書院 [3月刊]

鎌倉～室町時代を通観する歴史学の最新成果に、城館・寺社・墓所・古道など武士の拠点がそなえていた諸施設の歴史景観を大胆に復元する。

978-4-86215-203-9

大庭康時・佐伯弘次・坪根伸也編

戦国の城と館

(九州の中世 3)

A5判 350頁 3,800円 高志書院 [4月刊]

九州各地に割拠する戦国武士の城と館に焦点をしぼり、九州戦国史の内実にも迫る。全国の戦国ファンを唸らせる初めての試み。

978-4-86215-204-6

戦国史研究会編

論集 戦国大名今川氏

A5判 328頁 6,700円 岩田書院 [3月刊]

元代表・久保田昌希氏の古希を機に、氏の研究テーマの今川氏にかんする論考11編を収録。執筆：久保田・大石・黒田・小川・山田・丸島ほか。

978-4-86602-098-3

南奥羽戦国史研究会編

伊達政宗

戦国から近世へ

A5判 196頁 2,400円 岩田書院 [4月刊]

政宗生誕450年を記念して開催された3つのシンポジウムの記録をまとめる。執筆：遠藤ゆり子、高橋充、佐々木徹、阿部浩一、他7氏。

978-4-86602-093-8

横山昭男著

近世最上川水運と西廻航路

幕藩領における廻米輸送の研究

A5判 336頁 10,000円 吉川弘文館 [4月刊]

西廻航路の要衝酒田港は、舟運で運ばれる物資の集積地として栄えた。藩領の舟運の変化と豪商との関わりなどを、流通史から解明する。

978-4-642-03498-2

関根達人著

石に刻まれた江戸時代

無縁・遊女・北前船 (歴史文化ライブラリー 498)

四六判 286頁 1,800円 吉川弘文館 [3月刊]

江戸時代に作られた供養塔や災害碑を解説。祈りや願い、神社への奉納石から海運史、石工の姿を描き自然や社会環境の実態に迫る。

978-4-642-05898-8

北川 央著

近世の巡礼と大坂の庶民信仰

A5判 298頁 3,800円 岩田書院 [4月刊]

前著『近世金毘羅信仰の展開』(2018年、岩田書院)に続き、西国巡礼等の庶民の旅を、供養塔や名所図会等から描く。

978-4-86602-094-5

高橋廣明著

近世村落の形成

伊豆・東駿河にみる土地政策

A5判 360頁 8,400円 同成社 [4月刊]

家康による慶長3年の初期検地など、伊豆地域に残る豊富な近世史料を詳細に分析し、土地利用の実態を探りつつ地域的特性を描き出す。

978-4-88621-838-4

福井県郷土誌懇談会編

幕末の福井藩(岩田書院ブックレット H29)
A 5判 191頁 1,600円

岩田書院 [3月刊]

越前国内の譜代諸藩を含む幕末福井の全体像を明らかにする。本川幹男の本編の他に、長野栄俊など5氏の特論を付す。

978-4-86602-092-1

古川隆久著

皇紀・万博・オリンピック皇室ブランドと経済発展 (読みなおす日本史)
四六判 256頁 2,200円

吉川弘文館 [4月刊]

皇紀2600年(1940)を記念し企画されたイベント。国威発揚と経済発展を目指した計画の実行過程を探り、遺産や影響も考察。

978-4-642-07116-1

三谷真澄編

大谷光瑞の構想と居住空間

A 5判 270頁 3,500円

法蔵館 [3月刊]

万能の人、大谷光瑞が手がけた代表的な居住空間を多角的に照射するとき、彼のいかなる構想が浮かび上がるのか。歴史学・建築学から探る。

978-4-8318-6379-9

源川真希著

首都改造東京の再開発と都市政治 (歴史文化ライブラリー 500)
四六判 224頁 1,700円

吉川弘文館 [4月刊]

2つのオリンピックの間で東京はどう変わってきたか。政府・都知事の都市構想や経済状況、行政とディベロッパーとの連携から読解。

978-4-642-05900-8

谷本見久著

近世蝦夷地在地社会の研究

A 5判 480頁 9,000円

山川出版社 [3月刊]

近世の蝦夷地において、場所請負制度のもとに機能した地域社会の構造や特質を文献学的手法で明らかにする。交易や宗教などを実証的に分析した論集。

978-4-634-52042-4

世界史

概論・通史／アジア／ヨーロッパ／アフリカ／アメリカ／オセアニア

松谷基和著

民族を超える教会植民地朝鮮におけるキリスト教とナショナリズム
A 5判 320頁 3,800円

明石書店 [2月刊]

韓国のキリスト教史を日本の政治的支配より欧米の宗教的支配への抵抗として描き直す画期的な韓国キリスト教史。

978-4-7503-4958-9

川北 稔編

イギリス史 上(YAMAKAWA SELECTION)
B6変型判 292頁 1,200円

山川出版社 [4月刊]

EU離脱(ブレグジット)で国論を二分する混乱を味わったイギリスの、保守性と先進性のあいだで揺れる歴史をたどる。

978-4-634-42385-5

川北 稔編

イギリス史 下(YAMAKAWA SELECTION)
B 6変型版 352頁 1,200円

山川出版社 [4月刊]

EU離脱(ブレグジット)で国論を二分する混乱を味わったイギリスの、保守性と先進性のあいだで揺れる歴史をたどる。下巻ではEU離脱の動向を詳細に記述。

978-4-634-42386-2

浜本隆志・高橋 憲編著

現代ドイツを知るための67章 [第3版](エリア・スタディーズ)
四六判 408頁 2,000円

明石書店 [2月刊]

最新のドイツの実情を鳥瞰的に把握するとともに、今後ドイツがどこへ向かうのかを理解するための好個の一冊。

978-4-7503-4966-4

根津由喜夫著

聖デメトリオスは我らとともにあり中世バルカンにおける「聖性」をめぐる戦い
四六判 216+口絵4頁 3,000円

山川出版社 [4月刊]

幾多の夷狄を撃退したテサロニケの守護聖人デメトリオスを中心に、各国の政治的思惑と宗教的信念が交錯する激動の中世バルカン史を追う。

978-4-634-67248-2

高橋 進著

ムッソリーニ

帝国を夢見た政治家 (世界史リブレット人 88)

A 5 変型判 120 頁 800 円 山川出版社 [4 月刊]

世界で初めてファシズム運動を創設したムッソリーニ。革命派社会党員からファシストに転じた彼の行動と思想に焦点を当て、イタリア・ファシズムを描く。 978-4-634-35088-5

櫻井映子編著

リトアニアを知るための 60 章

(エリア・スタディーズ)

四六判 404 頁 2,000 円 明石書店 [3 月刊]

ふつうの日本人にとってあまりなじみのない国の 1 つであろうバルト三国のひとつ、リトアニアを知るための格好の入門書。 978-4-7503-4831-5

M・シュクリユ・ハーニオール著／新井政美監訳／柿崎正樹訳

文明史から見たトルコ革命

アタテュルクの知的形成

四六判 312 頁 4,000 円 みすず書房 [3 月刊]

トルコ建国の父アタテュルク。その構想の知的淵源を探り、西欧文明史との関係において帝国から共和国への革命期を分析した最新研究。 978-4-622-08885-1

文化史

文化史一般／政治・外交・経済／思想・宗教／
教育・科学／文学・美術・芸術／社会生活

熊倉功夫・井上 治著

茶と花

(日本の伝統文化 5)

四六判 388+口絵 8 頁 3,200 円 山川出版社 [3 月刊]

室町時代の武家文化の中で生成し、中世から近世へ向け大発展をとげ、さらに大衆化した茶道・花道の、現代の姿までを含め詳述する。 978-4-634-21305-0

歴史教育研究会(日本)編著

〔日韓歴史共通教材〕調べ・考え・歩く日韓交流の歴史

B 5 判 280 頁 2,800 円 明石書店 [2 月刊]

日韓関係の根底にある歴史認識の問題という教育課題に応える実践的な高校生用教材集。生徒を主体的・対話的な深い学びへと導く。 978-4-7503-4964-0

西田彰一著

躍動する「国体」 笈克彦の思想と活動

A 5 判 394 頁 6,500 円 ミネルヴァ書房 [2 月刊]

東京帝国大学の法学者・笈克彦による国体論の展開を軸に、天皇機関説論争が激化した日本激動の時代を紐解く。 978-4623-08838-6

嵩 満也・吉永進一・碧海寿広編

日本仏教と西洋世界

四六判 366 頁 2,300 円 法蔵館 [3 月刊]

日本近代仏教の革新者 12 名と西洋の交錯から、仏教再編の歴史をさまざまな局面で読み解き、日本仏教における「西洋化」の実相を問う。 978-4-8318-5559-6

道元徹心編

比叡山の仏教と植生

四六判 214 頁 1,500 円 法蔵館 [3 月刊]

比叡山は「日本仏教の母山」と呼ばれ、伝教大師の教えとともに類い希なる植生環境が息づいている。その思想・歴史・現在を報告する。 978-4-8318-6433-8

楠 淳澄・野呂 靖・危山隆彦編

日本仏教と論義

A 5 判 628 頁 7,500 円 法蔵館 [3 月刊]

仏教学・歴史学・文学など多様な分野の最先端研究が、日本仏教で展開した教理問答の構想と思想的・文化的意義を浮き彫りにする。 978-4-8318-6380-5

坂本信幸著

万葉歌解

A 5 判 988 頁 27,000 円 塙書房 [3 月刊]

一首一首の歌を形成する=語、その語の運用としての=歌、歌の集集体としての=体、という見地で、作品に即して総合的な作品解釈を目指す。 978-4-8273-0135-9

道元徹心編

日本仏教の展開とその造形

A 5判 399頁 8,000円 法蔵館 [3月刊]

仏教は、教理と造形が相互に作用して発展してきた。国内外の研究者が中世を中心に思想と美術の両面から日本仏教の本質に迫る。

978-4-8318-6383-6

末森 薫著

敦煌莫高窟と千仏図

規則性がつくる宗教空間

B 5判 358頁 12,000円 法蔵館 [3月刊]

敦煌莫高窟に描かれる千仏図。それは単なる装飾ではなく、様々な情報を含んだ、石窟を創出するうえで欠かせない図像であったことを証明。

978-4-8318-7731-4

北原かな子編著

近代移行期における地域形成と音楽

創られる伝統と異文化接触

A 5判 322頁 6,000円 ミネルヴァ書房 [1月刊]

日本史、思想史、民俗学など、多彩な研究視点から音楽の歴史性を探ることで、グローバル化する地域文化の連続と変容を問う。

978-4623-08646-7

本間洋子著

香道の文化史

(歴史文化ライブラリー 499)

四六判 240頁 1,700円 吉川弘文館 [4月刊]

香木の香りを鑑賞し違いを聞き分けて楽しむ芸道の源流を探り、香文化に関わった人々の姿を浮き彫りにする。政治的役割の側面も描く。

978-4-642-05899-5

中野歩美著

砂漠のノマド

カースト社会の周縁を生きるジョーギーの民族誌

A 5判 348頁 8,000円 法蔵館 [3月刊]

かつて物乞いと呪術に生きた移動の民ジョーギー。インド政府の定住化政策により他のカーストとも共存する新たな暮らしを構築する姿を紹介。

978-4-8318-6298-3

福原敏男著

仮装と俄の祭礼絵巻

A 4判 184頁 12,000円 岩田書院 [3月刊]

近世中後期～近代の都市の臨時祭を祝う仮装文化を中心に、練物や即興のパフォーマンス「俄」を絵画史料や文献史料により紹介。カラー 96頁。

978-4-86602-812-5

伝記

神谷正昌著

清和天皇

(人物叢書 304)

四六判 240頁 2,000円 吉川弘文館 [3月刊]

平安前期、9歳で即位した天皇。外祖父の藤原良房により摂関政治が始まる。清和源氏の祖先としても知られるその生涯に迫る。

978-4-642-05297-9

古井戸秀夫著

鶴屋南北

(人物叢書 305)

四六判 280頁 2,200円 吉川弘文館 [4月刊]

文化文政期の狂言作者。57歳で4世を襲名。『東海道四谷怪談』など百数十種の台本を著す。人を笑わせることを好んだ生涯を描く。

978-4-642-05298-6

高山龍三著

河口慧海

(ミネルヴァ日本評伝選)

四六判 408頁 3,800円 ミネルヴァ書房 [1月刊]

仏教の原典を求め日本人として初めてチベット・ラサへ潜入した慧海。仏教学者にして、あまりに型破りな稀代の探検家の情熱的な生涯。

978-4623-08784-6

地 理

村岡 倫編

最古の世界地図を読む

『混一疆理歴代国都之図』から見る陸と海

A 5判 298頁 3,200円

法藏館 [3月刊]

最新の技術でよみがえった現存最古の世界地図、『混一疆理歴代国都之図』を初めて詳細に分析し、当時の人びとの世界認識を読みとる！

978-4-8318-6385-0

雑 誌

日本歴史

日本歴史学会編集

4月号(第863) = 3月刊

5月号(第864) = 4月刊

日本史専門の月刊誌として、また最も親しみやすい歴史知識の普及誌として、研究者から一般社会人まで、幅広い各層が購読。

一年間直接購読料 8,600円 [税・送料込]

◆各種割引制度有

二年間前払い 16,400円 [税・送料込]

三年間前払い 24,000円 [税・送料込]

学生・院生 一年間 5,000円 [税・送料込]

A 5判 4月号 = 130頁、5月号 = 130頁

4月号 = 745円、5月号 = 745円

吉川弘文館 [3・4月刊]

歴史書以外の 人文社会図書新刊案内

2020. 3・4

明石書店

- 「発達障害」とされる外国人の子どもたち フィリピンから来日したきょうだいをめぐる、10人の大人たちの語り
金春喜著……………四六判 2,200円 2月
- カタストロフ前夜 パリで3・11を経験すること 関口涼子著……………四六判 2,400円 2月
- 不平等と再分配の経済学 格差縮小に向けた財政政策 トマ・ピケティ著……………四六判 2,400円 2月
- ハイデガーの超 - 政治 ナチズムとの対決 / 存在・技術・国家への問い 藤 孝夫著……………四六判 1,800円 2月

法 藏 館

- 地獄 石田瑞磨著……………文庫判 1,200円 3月
- 王法と仏法 中世史の構図 黒田俊雄著……………文庫判 1,200円 3月
- 曇鸞浄土論註の研究 親鸞「凡夫が仏となる」思想の原点 小谷信千代著……………A5判 8,000円 3月
- 唐中期浄土教における善導流の諸相 『念仏三昧宝王論』と『念仏鏡』を中心に
加藤弘孝著……………A5判 8,500円 3月

歴史系学会・シンポジウム開催情報

日本考古学協会 第86回(2020年度)総会

◆開催中止 ◆詳細は協会HPを参照ください ◆HP詳細あり

日本文化人類学会 第54回研究大会

◆開催中止 ◆代替開催等については学会HP等を参照ください

◆問合せ(実施委員会事務局) jasca54th@gmail.com ◆HP = 詳細あり

第89回 社会経済史学会 全国大会

◆開催中止 ◆詳細は学会HPを参照ください ◆HP詳細あり

2020年度 歴史学研究会 大会

◆開催延期 2020年12月5日～6日に開催予定 ※古代史部会は11月28日に開催

会場=一橋大学 国立キャンパス*

◆問合せ(同会事務局) 電話 03-3261-4985 ◆HP = 詳細あり

2020年度 明治維新史学会 創立40周年記念大会

◆開催延期 ◆総会および大会の新日程等については、決定次第発表する予定 ◆HP詳細あり

第70回 日本西洋史学会 大会

◆開催延期 2020年12月12日に開催予定 会場=大阪大学 豊中キャンパス

◆問合せ(大会準備委員会) seiyoshigakkai70osaka@gmail.com ◆HP = 詳細あり

(2020年4月6日現在)

* 印の会場では、予定通り大会等が開催された場合、歴史書懇話会による出張書籍販売を予定しています。

◆上記記載以外の学会大会につきましては4月7日現在、情報不足のため掲載しておりません。

パンデミックで学会大会ロックアウト？

◆ちかごろテレビや紙上で聞き慣れない洋語がぼんぼん飛び交いなにやら真剣な顔で話してますけど、あれ、なにかを伝えるつもり、ゼロですよ。さて、広辞苑（第2版）でコロナを引いてみると「皆既日食の時、太陽の縁から四方にぼやけて見える真珠色の淡光。太陽大気の外層」云々とあります。あの形状、うーむ、なるほど。名前が「ころな」という人や店もあるでしょうに、きっと肩身の狭い想いをされているのだろうと気の毒になります。武漢閉鎖が2020年1月23日。あのころは正直まだ対岸の火事と思っていました。しかし遠からず、歴史年表の2020年の欄には新型コロナウイルスの文字が刻まれることでしょう。オリンピックも延期ですが、歴史の専門出版社としましてはなんとと言っても歴史系の春季学会大会の動向が気がかりです。というか気がかりでした。3月23日に歴史学研究会の大会延期が発表され懸念が現実。決めかねている学会もいずれは同様の対応を取らざるを得ないでしょう。専門出版といえど商業出版。こ、これは利きます。じわりとポディーブローなんてレベルではなく、アッパーが誤って金的に入ったくらい笑い事ではすまない大惨事です。「ピンチをチャンスに」とは理想ですが、コカン、、、じゃなくて頭の痛い毎日です。

◆「要請」され、学校は休校、イベントは自粛。はじめから「強制で一すw」とかいつてくれたらまだかわいいのに、あくまで要請。言葉は使いようですが、もう恥も外聞もなく大人のズルさ全開で、歴史上の人物でいえば田沼意次とか小早川秀秋とか、イメージ的にそんな人物像と重なります（田沼は「剣客商売」のおかげでだいぶ改善しましたが）。騒ぎすぎという人もいますし、今さら遅いけどやるならもっとガチでやれという人などさまざまな見解が巷に溢れておりますが、いずれにせよ、なんとなくゲーム感覚の人のなんと多いことか。70年代のオイルショックでトイレトペーパーが在庫切れ。09年の新型インフルエンザでトイレトペーパーが在庫切れ。今回の新型コロナでもトイレトペーパーが在庫切れ。近代以降の「イザ事が起こればトイレトペーパーを買うべし」という構図は、既にして歴史の一部といっても過言ではありません。大衆心理とトイレトペーパー生産量の相関関係をまじめに研究した本を出せば結構売れるのではないかと、とも思いますが、そこは歴史の出版社。トイレトペーパーのなかった時代も視野に入れ、縄文から近代までの風が吹けば桶屋が儲かる的事例を網羅した超大作！ という起死回生の一手（一書？）で今回の経済的損失を挽回せねば。

◆その超大作は残念ながら間に合いませんでしたが、現在開催されている月替わりの連続ミニフェア「歴史書懇話会・今月のオススメ」は、新たに1店舗が加わりまして、次の6書店で開催されています（カッコ内はフェア開始の日付）。◇天童市 TENDO 八文字屋（2006年7月～）／◇新潟市紀伊國屋書店新潟店（2007年8月～）◇松江市今井書店グループセンター店（2008年6月～）／◇大阪市喜久屋書店阿倍野店（2013年11月～）／◇出雲市今井書店出雲店（2014年7月～）／◇水戸市川又書店県庁店（2020年2月～）。会員各社が厳選した、旬な歴史書を展開しています。お近くの方はぜひ足をお運びください。

(RK)

歴史書懇話会とは

〒113-0033 東京都文京区本郷7-2-8 吉川弘文館内

1968年6月に歴史書を刊行する有志出版社7社で結成され、現在7社が加盟しています。結成以来52年、「すぐれた歴史書の普及とその販売を積極的に推進する。本会はその目的達成のため、会員相互の協力によって必要な研究ならびに事業を行う。」(会規約)の精神に基づき活動しています。

〈歴史書懇話会〉の主な事業

◆「歴史書通信」(隔月刊)最新の歴史書情報を提供しています!

会員各社の新刊・重版情報、誌上フェア、書店情報を掲載する出版情報誌。歴史関連のエッセイなども掲載し、歴史知識の普及をはかっています。ご購入を希望される方は最寄の書店を通して、事務局までお申込み下さい。

◆「歴史書ベストフェア」小規模書店にも本格派の歴史書を!

全国約90書店で会員社の歴史書40冊余を1年間展示販売しています。選択セットを加え、最大規模は120冊のセットとなります。出品リスト及び販売店一覧は「歴史書通信」5月号に掲載します。

◆「歴懇リバイバル」復刊書フェアとしてご好評いただいています。

統一復刊・重版事業「歴懇リバイバル」を実施しています。

一社では困難な専門書の復刊・重版を共同で行う活動です。読者から要望の多い名著や基本図書を復刊し、毎回100店近い書店・大学生協で店頭フェアを展開しています。

◆「ホームページ」&「メール通信」による情報発信

当会のホームページでは、新聞書評情報、歴史書の検索、書店フェアや各社の新刊案内、歴史書懇話会からメール通信を配信するメールアドレス登録の受付、「歴史書通信」PDF版などを掲載しています。

メール配信のお申込みは<http://www.hozokan.co.jp/rekikon/>からお願いします。

歴史書懇話会 会員社

明石書店・同成社・塙書房・法藏館・
ミネルヴァ書房・山川出版社・吉川弘文館

歴史書懇話会ホームページ

<http://www.hozokan.co.jp/rekikon/>

歴史書懇話会会員社ホームページ

明石書店	http://www.akashi.co.jp/
同成社	http://www.douseisha.co.jp/
塙書房	http://rr2.hanawashobo.co.jp/
法藏館	http://www.hozokan.co.jp/
ミネルヴァ書房	http://www.minervashobo.co.jp/
山川出版社	https://www.yamakawa.co.jp/
吉川弘文館	http://www.yoshikawa-k.co.jp/

歴史のなかのカタルーニヤ

— 史実化していく「神話」の背景 立石博高著

2017年、カタルーニヤで起こった独立騒動は世界中の注目を集めた。独立を至上命題とする人びとが語る「神話」によって抑圧されるマイノリティの存在を明らかにしつつ、これからの民主国家の在り方を考える。

四六判 272頁 本体2500円

聖デメトリオスは

我らとともにあり

根津由喜夫著

— 中世バルカンにおける「聖性」をめぐる戦い

テサロニケの守護聖人デメトリオスは、ブルガリア再独立のシンボルとなつて以来、諸勢力の争奪的となつた。各国の思惑が交錯する激動の中世バルカン史を追う。

四六判 216頁十口絵4頁 本体3000円

近世蝦夷地

在地社会の研究

谷本晃久著

A5判 480頁 本体9000円

近世の蝦夷地(北海道)において、場所請負制度のもとに機能した地域社会の構造や特質を、文献史学の手法で明らかにする。研究成果をふまえ、交易や宗教などを手掛かりに実証的に分析した論集。

偽書が揺るがせた日本史

原田 実著 教科書にも載せられ、私たちの「常識」の部を形作ってきた書物・文書のなかにも「偽書」と判明したものもある。なぜ、偽書は横行し続けるのか? 30のテーマで偽書と日本史の関係を解き明かす。

四六判 272頁 本体1800円

日本の伝統文化

シリーズ全6巻

茶と花

最新刊

熊倉功夫・井上治著 日本伝統的生活文化を象徴する茶の湯といけばな。室町時代の武家文化から生まれ、近世に発展し大衆化していった過程を、現代の姿を含め紹介する。



四六判 本体3200円 388頁十カラー口絵8頁

伝統文化

五味文彦著

496頁十カラー口絵8頁 四六判 本体4000円

浮世絵

小林忠著

216頁十カラー口絵16頁 四六判 本体3200円

日本史リブレット人

聖武天皇

— 帝王としての自覚と苦悩

寺崎保広著 はなやかな天平文化の中心にあった聖武天皇。しかし晩年にはさまざまな苦難が重なり、仏教に没頭してゆく。奈良時代を代表する天皇の人物像を描く。

A5変型判 100頁 本体800円




ペストの歴史

宮崎揚弘著

かつて「黒死病」の名で恐れられ、ヨーロッパ社会に大きな影響を与えたペストの歴史を概観し、疫病大流行の恐怖とその克服の試みを明らかにする。今も続くパンデミックの脅威に対応してきた「人間の知恵」を考える書。

四六判 240頁 本体2500円

 山川出版社

東京都千代田区内神田 1-13-13 [価格は税別]
電話 03-3293-8131 <https://www.yamakawa.co.jp/>

近世最上川水運と

西廻航路

幕藩領における廻米輸送の研究

横山昭男著 西廻り航路の要衝酒田湊は、内陸の村山郡から最上川の舟運で運ばれる米などの物資の集積地として栄えた。幕藩の廻米機構の変化や農民負担、藩領の舟運の変化と本間・鈴木家ら豪商との関わりを、流通史から解明する。
10000円

鶴屋南北

(人物叢書305)

古井戸秀夫著 文化文政期の江戸歌舞伎を支えた狂言作者。江戸で生まれ、五七歳で四世を襲名。尾上松助や松本幸四郎らの当たり役を生み出し、「東海道四谷怪談」など百数十種の台本を著す。22000円

永青文庫の古文書

光秀 葡萄酒 熊本城

公益財団法人永青文庫・熊本大学永青文庫研究センター編
熊本藩細川家に伝わる六万点近くの歴史資料。幽斎・明智光秀・カラシヤをめぐる人間模様、忠利の所望した国産葡萄酒、江戸初期の震災と熊本城の修復、歴代当主の甲冑のゆくえなどを取り上げ、細川家の歴史の深奥に迫る。
18000円

現代語訳 小右記

◎大臣関貞驛動

倉本一宏編
30000円

無能な左大臣顕光が辞任するという噂が駆けめぐる。代わって大臣の地位を得るのは、これも無能な道綱ではなく自分であると確信する実資は、情報収集に全力を傾ける。刀伊の入寇をさておいての騒動であった。

歴史文化 ライブラリー 通巻500冊達成

香道の文化史

本間洋子著
17000円

香道は中世日本で花開いた。香木の香りを鑑賞し、違いを聞き分けて楽しむ芸道の源流を探り、香文化の発展に深く関わった人々の姿を浮き彫りにする。
(通巻499)

皇紀・方博・オリンピック

古川隆久著

皇室ブランドと経済発展

皇紀二六〇〇年(一九四〇)を記念して企画された壮大なイベント、万国博覧会開催・オリンピック招致、国威発揚と経済発展を目指した計画の実行過程を検証。(読みなす日本史) 22000円

「王」と呼ばれた皇族

古代 中世皇統の末流

日本史史料研究会監修・赤坂恒明著 興世王・清風王・以仁王。歴史の陰に埋もれてきた「王」たち。史料から見た皇族末流の真の姿。28000円

明智光秀の生涯

(歴史文化ライブラリー489)

18000円

諏訪勝則著 織田家中随一の重臣に上り詰めたが、なぜ主君を襲撃したのか。謀反の真相に新見解を示し、本能寺の変の真相と光秀の実像に迫る。

戦国大名北条氏の歴史

小田原開府五百年のあゆみ

小田原城総合管理事務所編・小和田哲男監修 伊勢宗瑞(早雲)の登場から戦国を経て近世小田原藩にいたる歴史を描く。
19000円

戦争とトラウマ

不可視化された日本兵の戦争神経症

中村江里著 アジア太平洋戦争中に軍部の注目を集めた戦争神経症は、なぜ戦後長らく忘却されてきたのか。現代的精神の視座も示す。
46000円

モノのはじまりを知る事典

生活用品と暮らしの歴史

木村茂光・安田常雄・白川部達夫・富瀬交二著 モノの歴史をたどれば人の歴史が見えてくる。意外となつた歴史学者が語るモノの起源の事典。26000円

戦国史研究 第79号

鎌倉遺文研究 第45号

予価6800円 予価2000円

戦国史研究会編集

鎌倉遺文研究会編集

首都改造

東京の再開発と都市政治

源川真希著
17000円

一九六四年東京オリンピック後の都市再開発から、副都心開発、パブルとその崩壊、二〇二〇年オリンピックに向けた再開発まで。東京の変貌を浮き彫りにする。
(通巻500)

好評重版

吉川弘文館

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-2-8
電話 03-3813-9151 (代表)

2019-2020年「出版図書目録」送呈
FAX 03-3812-3544 (価格は税別です)

歴史書懇話会

▶会員社名簿◀

明石書店

101-0021 千代田区外神田 6-9-5 (担当者: 川西花苗)
TEL. 03-5818-1171 FAX. 03-5818-1174

同成社

102-0072 千代田区飯田橋 4-4-8 (担当者: 佐藤涼子)
TEL. 03-3239-1467 FAX. 03-3239-1466

塙書房

113-0033 文京区本郷 6-8-16 (担当者: 関口守俊)
TEL. 03-3812-5821 FAX. 03-3811-0617

法藏館

600-8153 京都市下京区正面烏丸東入 (担当者: 秋月俊也)
TEL. 075-343-5656 FAX. 075-371-0458

ミネルヴァ書房

[本社] 607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1
TEL. 075-581-0296 FAX. 075-581-0589
[東京支社] 101-0062 千代田区神田駿河台 3-6-1 菱和ビルディング 2F
TEL. 03-3525-8460 FAX. 03-3525-8461 (担当者: 青柳英孝)

山川出版社

101-0047 千代田区内神田 1-13-13 (担当者: 田村 裕)
TEL. 03-3293-8132 FAX. 03-3292-2994

吉川弘文館

113-0033 文京区本郷 7-2-8 (担当者: 春山晃宏)
TEL. 03-3813-9151 FAX. 03-3812-3544

2020年5月1日発行・第249号

発行 **歴史書懇話会**

113-0033 文京区本郷 7-2-8 吉川弘文館内
(非売品)

取扱店
法藏館書店

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-3 1-0458